

あっという間に3月も終わろうとしています。年明けから今まで、私がこの2年間のうちでも最も力を入れたことになるであろう行事が二つ立て続けにあり、忙しかったです。

まず、2月1日に African National Day Show がありました。

北はモロッコから南はスワジランドまで、アフリカ出身の生徒たちが自分たちの文化や歴史を発表する機会です。ショーまでの一週間は AND week と呼ばれ、食堂ではアフリカの料理が供され、movie night や、アフリカの社会問題について議論するイベントなども行われました。

私はギニア代表として参加したものの、実際にアフリカに住んでいたことはないためショー以外の準備にはほとんど関わりませんでした。ショーにおいても三つの演目とクロージングにしか出ていません。それでも、それらの練習と照明の仕事との両立はかなり厳しかったです。冬休みを挟んで準備期間は二ヶ月ほどでしたが、その間いろいろな人と関わり、親くなりました。私はあくまで日本からの派遣生なので参加しないという選択肢もあったのですが、参加して本当に良かったし、またゲストではなく AND の一員として受け入れてもらったのも本当にありがたいことだと思います。



Act 1:

1. Opening 5 min
2. Traditional Dance 5 min
3. Trivia w/ Abdi 2 mins (filler)
4. Central Narrative: Intro 5 min
5. Gumboot 2 min
6. Coming to America 4 min
7. Central Narrative: Slavery 6 min
8. African Song for Peace 2:30 min
9. Wedding Part One 4:20 min
10. North African Video 4 min
11. Ode to Nigeria 3 min
12. Flipping the Script (Classroom Skit) 3 min

43:50 min

Intermission - 15 mins

Act Two:

1. Central Narrative: Witchdoctor 3:40 min
2. What Do You Think Of Africa Video? 2 min
3. Remembele Dance 1:55
4. African Mum Chronicles 3 min
5. African Leaders 4 min
6. Honoring Mandela 4:00 min
7. African Queen 2:40 min
8. Fashion show: filler in front of curtains 2 min
9. Central Narrative: Wedding 10 min
10. 27 Wives 1 min (filler)
11. Tribute to African Authors 3:00 min
12. Central Narrative: Conclusion 1:30
13. Why I'm An African 3 min

そして、3月10日には Pacific Asian National Day Show がありました。

以前に日本は Far East National Day に参加すると書いたと思うのですが、その後名称が変更されました。東～東南アジア地域を Far East、極東と呼称するのはあまりに欧米中心主義的ではないかという意見が(日本人の先輩から!)あり、自分たちで代替案を出し、投票を経て Pacific Asian National Day に決まりました。また PAND 地域出身の生徒たちは、PANDa(s)と呼ばれます。大変可愛いですね。多分これが PAND という名称になった決め手でした。

こちらも AND 同様一週間の PAND week がありました。食堂では、いなり寿司や巻き寿司が供された日もありました。まあまあ、という感じでした。アメリカのお米と東アジアのうるち米では必要になる水加減が違うため、特に食堂のような大量に調理する場合はなかなかうまく炊くのは難しいようです。個人的に嬉しかったメニューは、どら焼きでした。

この一週間提供される料理のメニューも、基本的に food leader の生徒が考えます。ヴィーガン用メニューが必要であったり様々制約がある中、各国の料理をアメリカの学校の食堂で提供できる形で考えたリーダー、そしてそれを実際に調理してくださった食堂スタッフの方々のおかげで PAND week の料理が楽しめたと思うとありがたいです。

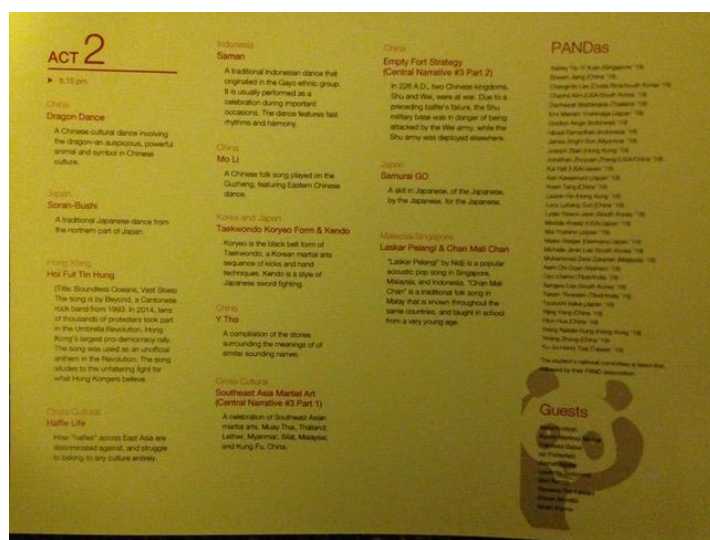
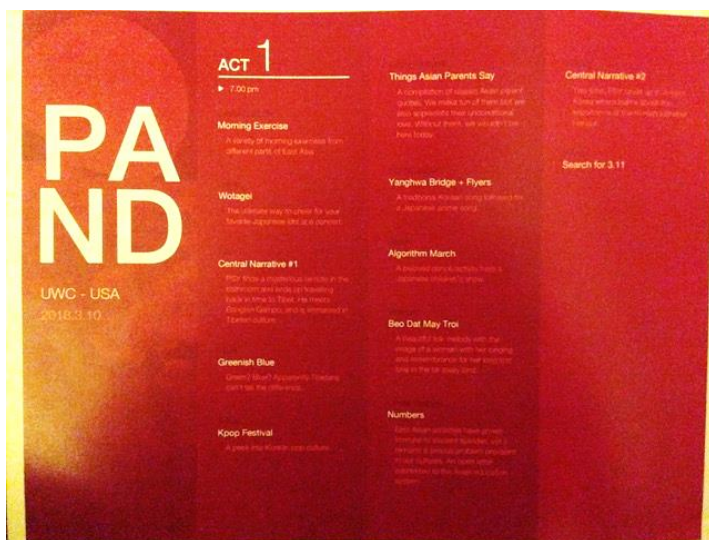
AND や今までの cultural day 同様に社会問題に関するイベント(global issues と呼ばれています)もあったのですが、今回は1日でプレゼンテーションや議論などを行うのではなく、五日間異なるトピックの短いビデオを制作し、イベントの日にはそのビデオの内容を元に質疑とディスカッションをするという形式が採られました。これも global issues leader たちによる新たな試みだったのですが、成功だったように思います。具体的には中国本土と香港の関係、ロヒンギャ問題、アメリカにおけるマイノリティーとしてのアジア系(一般に黒人やヒスパニックに比べ優遇措置がなされない場合が多い)についてなどのトピックがありましたが、どれも面白かったです。

Cultural show の際は、全体を執り仕切る general leader, ショーについての一切を担当する show leader, food leader, global issues leader, 舞台背景を担当する backdrop leader, SNS 用の参加者のプロフィール写真やその他広報用の写真を担当する profile pic leader, ショーの夜に行われるパーティーを企画運営する party leader が投票で選ばれます。私は profile pic leader だったのですが、写真を撮影しプロフィール画像としてデザインする、それだけにもかかわらず予想以上に大変でした。ただ良い経験にはなったと思います。

全体的に、AND に参加した時に比べ責任を負う機会が多く、そこが一番辛かった要因でもあり、楽しかった理由でもあるように思います。二年生が半ば引退し一年生が中心となった tech(小石川の文化放送のような団体です)の活動では、照明の他の人たちとなかなか連携が取れなかったことが一番大変でした。演目のリーダーをやったことも、成長する機会になったように思います。物理的にも精神的にも大変な一ヶ月半でしたが、そのぶん全てが終わった時は感動しました。

ショーの後、友人から自分が関わった演目を良かったと言ってもらえた時は本当に嬉しかったです。

今回はパンフレットもちょっと凝っていたので、写真を添付したいと思います。本当はそれぞれの演目について原稿用紙一枚ぶんくらいは書きたいのですが、すでにかなり長い文章になっているためやめておきます。



ちなみに Japanese skit は全編日本語で行いました。視覚効果に頼った結果、台詞を理解した観客はほぼいないはずにもかかわらずかなり好評でした。クロージングの写真も添えます。



そしてPANDが終わったほぼ直後から一昨日にかけてはProject Weekでした。これは、春休み期間を利用して奉仕活動兼息抜きをするための遠足のようなものです。私は Taos good medicine という少し胡散臭い名前のトリップに参加しました。これがどうやら当たりを引いたようで、瞑想をしたりお寺を訪ねたりなんだかアグレッシブなヨガに挑戦したりハイキングに行ったり大きな浴槽に浸かったりしつつ、一週間タオスという小さな町で一週間、基本的にただのんびりしていました。時間はふんだんにあったのでラップトップを持って行かなかったことを最初は後悔しましたが、持って行っていたらこれほどのんびり出来なかったかもしれないとも思います。

